

令和2年度茨城県総合教育会議 議事録

○日 時； 令和2年12月25日（金）15時30分から16時00分まで
○場 所； 庁議室
○出席者； 茨城県知事 大井川 和彦
教育庁 小泉 元伸
教育委員（教育長職務代理者）川上 美智子
教育委員 内藤 學、中田 俊之、市原 健一、
庄司 一子、中庭 陽子

1 開 会

（事務局） ただいまから、令和2年度茨城県総合教育会議を開会いたします。事務局を務めます政策調整課です。この会議は公開となっておりますので、よろしくお願いいたします。

初めに、本会議を主宰いたします大井川知事よりご挨拶を申し上げます。

2 知事挨拶

（大井川知事） 本日はご多忙の中、令和2年度茨城県総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から本県教育の発展に多大なご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

現在も予断を許さない状況が続く新型コロナウイルス感染症については、長期間の休校措置を余儀なくされるなど、教育環境にも大きな影響を及ぼしているところであります。

休校期間中、本県では、学校における感染症対策や児童生徒の心のケアなどについてまとめたガイドラインを策定し、きめ細かな対応を図るとともに、学習面においては、分散登校における対面指導とあわせ、オンデマンド型の授業動画の作成、配信を進めることなどにより、子供たちの学びを最大限保障するよう努めてきたところであります。今後とも感染状況を十分注視しながら、安全に学校生活を送れるよう取り組んで参ります。

さて現在、我が国では、急速な人口減少や少子高齢化、社会経済のグローバル化の進展、5Gを初めとする最先端デジタル技術を活用したデジタルトランスフォーメーションによる社会変革など、これまでに経験したことの無い時代の転換期を迎えております。

こうした社会構造や社会情勢の大きな変革期にあって、これからの時代を担う子供たちの教育については、まさに県政の最重要課題の一つであります。横並びや前例踏襲から脱却し、みずから未来を切り開くことのできる人材を育成するため、特色ある学校づくりやICTなどの活用に加え、教員の働き方改革といった教育環境を改革する取組を進めていく必要があるものと考えております。

このため、高校生等のアントレプレナーシップの育成を目的とした「IBARAKI ドリーム・パス事業」のほか、意欲ある中高生に対する実践的な英語学習の機会の提供やプログラミング教育の実施、さらには授業の質の向上を図るための小学校高学年における教科担任制の導入など、人財育成改革に資する取組を引き続き進めて参ります。

また、県立高等学校改革プランに基づき進めている中高一貫教育校の設置、サイエンスやITに特化した特色ある学校づくりのほか、来年4月につくば市に開校する最先端の通信制高校「S高」と連携した取組、ICTを活用した事業を進めるためのコンテンツの充実や教員のスキルアップの支援、さらには、より良質な授業を実施できるようにするための教員の働き方改革など、教育環境改革をしっかりと進めて参りたいと考えております。

こうした取組を進める上では、教育委員会の皆様と密接に連携を図っていくことが不可欠でありますことから、本県が進める教育改革の方向性について、忌憚のないご意見を賜りたいと考えております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

(事務局) それでは、早速議事に移ります。議事進行は、大井川知事をお願いいたします。

3 議 題

(大井川知事) それでは議題の「10年後を見据えた人財育成に向けた教育改革」について説明をお願いします。

(小泉教育長) それでは、資料を3枚用意してございますのでご覧ください。

まず、(1)(2)に記載のとおり、現在、県では、人財育成改革、教育環境改革に関する様々な取組を進めているところであります。

本資料はそれぞれの改革について、短期的・中長期的な視点での施策の方向性をお示しするものでございます。

まず、人財育成改革についてです。それぞれの目的ごとに、現在の取組、短期的な方向性、中長期的な方向性を整理しております。主なものといたしまして、トップレベル人財育成では、現在、英語やプログラミング分野におけるトップ層の育成に取り組んでおりますが、こうした取組を引き続き進めることで、将来、社会を動かすトップリーダーとなり得る優秀な人材を輩出して参りたいと考えております。

チャレンジ人財育成におきましては、「IBARAKI ドリーム・パス事業」などをさらにブラッシュアップすることにより、起業家精神の育成に努めていくことや様々な体験を通じて主体的に物事を考えたり、課題解決に向けた行動ができるような人材を育成して参ります。

地元企業に貢献できる職業・技能人財育成では、企業と連携したデュアルシステムなどの取組を充実させ、地元企業への定着や本県産業の振興に寄与できる時代に即応した、専門性の高い人材を育成して参ります。

このほか、誰一人取り残さない取組やスポーツ競技力向上につきましても、成果を踏まえて改善しながら、引き続き、様々な施策に取り組んで参ります。

3枚目をご覧願います。教育環境改革です。まず、教育ICT化改革につきましても、現在、今年度中を目途に、1人1台端末や学校における通信環境の整備を進めているところでありますので、今後は、授業動画などを活用した反転学習や個別最適化学習を進めて参ります。

教員の働き方改革につきましても、今年度小中高の各モデル校におきまして、時間割の工夫や部活動指導員の活用、あるいは、学校行事の精選などにより、教職員の超過勤務時間の縮減に向けた取組を進めているところであります。こうした取組を検証しまして、来年度以降、全県に横展開することで、より良質な事業を実施できるような環境を整えて参りたいと考えております。

このほか、優秀な教員の確保や、人事給与制度改革、学校施設整備の推進につきましても、引き続き積極的に進めて参ります。

教育施策に関する現状と、今後の方向性についての説明は以上でございます。

(大井川知事) はい。それでは本件を含め、教育政策全般につきましても、16時を目途に意見交換を行いたいと思います。どなたからでも結構です。お願いします。

(内藤委員) ご説明ありがとうございました。10年後のビジョンからバックキャストで現状作っていく、とてもいい手法だと思っておりますので、一緒に取り組んでいきたいと思っております。

私は会社を経営しておりますので、どうしても従業員の働き方に目が行くんですが、ここ数年間、何校か学校を視察させてもらっている中で、学校の先生は本当に一生懸命現場で取り組んでいただいている反面、やはりちょっと働き過ぎ、ちょっと疲れてらっしゃるのかなと、気になるところでございます。

民間会社によるデータですけれども、中学3年生の男子が将来なりたい職業から、去年から学校の先生がなくなっちゃったんですね。やっぱりこれは何とかしたいと思っております。

デジタル化、ICT化については、生徒の授業のみならず、学校の先生の効率化にもなりますので、そこをぜひ集中して取り組んでいただきたい。

また、どうしても時間がかかっている部活、この見直しも是非思い切ってやっていただきたいと思っております。私は、大洗高校のマーチングバンド部が大好きなので、全国から生徒が集まるような非常に個性のある学校づくり、そういった個性のある学校づくりをどんどんやっていっていただきたいと思っていますところですので。

(大井川知事) 皆さんどうですか。

(川上教育長職務代理者) トップレベルの人財育成ということで、中高一貫教育校を増やしていくという取組がなされておりました、先日、水戸第一高等学校を視察させていただきました。先生方が本当に一生懸命で、生徒さんも本当に授業に集中して一生懸命聞いている。また、最新の電子黒板なども非常によく活用されながら、授業が進められているということで、トップレベルというのはこういうものかと拝見いたしました。

茨城県はこの中高一貫教育だけに限らず、現在、それぞれの地域の高等学校に対して、多様性を持たせる、それぞれ特色を持たせるという取組もいっぱいやっております。今後、茨城の高等教育が全国でも先進性のある最先端の教育ができるんじゃないかとみている次第です。

その中で、シンギュラリティ、AIと人間が競い合う時期が来るだろうと。今やっているAI、IoTの教育あるいはICTの教育とか、それから英語力をつけるなど、もちろんやっていただきたいんですけど、もう一つ、人間にしかできないことというのを大事にさせていただけたらと思っております。

それは何かと考えたときに、やはり感性です。トップ校であってもそういう部分は忘れないでいただきたいと思っております、創造力あるいは感性、学校によっては非認知能力に力を入れたいと言っている学校もありますけれども、人間しか持てない部分、ここをしっかりとやっていく必要があると思っております。

知事の方で、個性を伸ばすあるいは専門性をしっかり伸ばす、この辺りについて今後力を入れていただければと思っております。また、特に中高一貫教育校では、大学との連携、高大連携を一層進めていただきたいと思っております。茨城県は幸いにして一流の研究者がいらっしゃいます。それらを生かして、大学と一緒に研究を通じて、社会貢献ができる高等学校になってきたら、素晴らしいと思っておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

(中田委員) 私からよろしいですか。知事のお考えにもあると思いますが、以前ボトムアップ的な教育よりも尖った教育ということで、才能のある子をより伸ばすエキスパート教育プログラムやドリームパスがあると思いますが、そういったところを是非強化していただきたい。また、このコロナ禍でスポーツがなかなかしづらい状況になっていると思いますが、スポーツの面でも茨城は国体で非常に良い成績を残しましたので、国体でのエネルギー、ポテンシャルを是非とも維持していただいて、スポーツでも茨城からトップレベルの選手が出てくるような教育を継続していただきたいということがまず一つです。

また、誰一人取り残さないという意味では、特別支援学校の就職率アップということ、私も企業を経営していますが、正直、教育委員という立場になるまで特別支援学校の生徒たちのレベル感は全くわからなかったところでした。今は毎年のように採用していますが、非常にいい子たちが採用できていますので、是非とも企業の方にこういった例があるよ、ということをお示しいただくと採用に拍車がかかるのではないかと思っておりますので、よろしく願いいたします。

あともう1点は、働き方改革について、本当に教員の皆さんが疲弊していると、私も感じています。いつまでに残業このぐらい、有給取得率このぐらいという数値は、当然お持ちと思いますが、経過としてどのくらい進んでいるのか、我々にもわかるようにお示しいただきたいなと思っております。私から以上でございます。

(大井川知事) ありがとうございます。

(市原委員) 私の方からは、今年、茨城県が魅力度ランキング47位から42位になったと。何故かということとはわかりませんが、ただやはり特に若い方がそこに住んでみたいと思う、この一番大きな要因は教育だといろいろな方から聞いています。茨城県の教育としては、中高一貫であるとか、「S高」を開設するとか、色々な取組をやっている。ただそれが茨城県のイメージに直結していないのではないかと、思っていてそれが非常に残念です。

今回、ICTの機器の整備も大々的にされるわけですがけれども、ICTというのは一つのツールであって、それを整備することが目的ではないと思いますので、ぜひとも、ただ単に整備するだけではなく、それをいかに活用するか、またモチベーションをしっかり持った教員の方をいかに養成するか、ということをお願いしたいと思っています。

それからもう一つ。学校教育現場のハード面の整備、これが非常に望まれていることだと思っています。学校はここ十年間で、耐震であるとか、冷暖房の整備、それからトイレの洋式化、どれ一つとっても大変お金のかかることだと思っています。今後大きな地震が来ることも考えられますし、日本は毎年毎年、風水害に見舞われるということもあります。学校は非常に老朽化していますので、ハード面の整備、それと通学路の安全確保にも是非とも力を入れていただきたいと思っています。以上です。

(大井川知事) ありがとうございます。

(庄司委員) 私、昨年11月に委員に就任させていただきましたけれども、知事を中心として中高一貫教育校を意欲的に作っているということで、県がこのような教育改革に取り組んでいることを非常に誇りに思っている、ということをお聞きして参りました。

やはり全国に先駆けて生徒の個性を伸ばしたり、能力をどのように育てるかということに取り組んでいることが、茨城県の一つの魅力になっていくと思いますし、全国を牽引する一つのモデルになっていると感じております。

その一方で、この人財育成改革の目的の中に、誰一人取り残さない取組ということも同時に挙げておられますので、子供たちの居場所づくりであるとか、メンタル面のサポートというのと同様に引き上げられているということに私は大変ありがたく思いました。

それから教育環境改革の中で、ICT化をどんどん積極的に進めているわけですが、子供たちの能力を育てると同時に、先生方のICTをうまく使いこなす能力と指導力というのをさらに伸ばしていくためにどうしたらいいかっていうことも、先生方の働き方改革と同時に課題になっているのではないかと考えているところです。以上です。

(大井川知事) ありがとうございます。

(中庭委員) 私の方では、学校の役割について考えることがありまして、今、生徒の一人一人がインターネット端末を持って自分で学べるようになります。自分で世界と繋がり、自分で知りたいことを検索して学べる時が間もなく来るという中で、学校は今までのように「教える」という場から、役割が変わらざるを得ないのではないかと考えております。自分が、並木中等教育学校で校長をしていたときに体験したことに触れますと、子供たちが「知りたいと思う、できるようになりたいと思う」、その気持ちを作ることが本当に一番大事であります。それに至るには、一流のものに接する体験、本物に接する体験、または、本当に自分と全く異なる文化に接して衝撃を受ける体験、こういったもので子供たちを揺さぶることが大事だと思います。

そのような中で、今、県の方で、10年後を見据えた人財育成ということで改革がなされておりまして、この資料を拝見しますと、グローバルリーダーの育成、プログラミングエキスパート育成、起業家育成、また、スポーツの面ではトップアスリートの育成など、様々な出会いが用意されています。これは子供たちにとって、本当に幸せな環境が整ってきたのではないかと、思っております。トップが高くなれば裾野も広がりますので、是非このような取組で、元気な子供たちを育てていただけたらと思っております。

そしてもう1点、中高一貫校が様々なところで話題になっておりますけれども、やはり中学校と高校の部分、義務教育と高校教育で今まで分かれていました。しかし子供たちの学びは連続していくわけです。ですから、教育行政の中でも、そこに分断する壁があってはならないと思います。学びをうまく伝達して、小学校から中学校、中学校から高校とつなぎ、また、これからできる特色ある高校に行きたいと思う子を中学生で育てていただくなど、子供たちが伸び伸びと自分の能力を高められる、そういった教育のあり方を茨城県から発信していただけると良いかなと、期待をしております。

(大井川知事) ありがとうございます。

(小泉教育長) 各委員さんから、様々な分野に貴重なご意見ありがとうございます。

まず、内藤委員からあった働き方改革の面。確かに教員の働く時間がすごく長くなっていて、魅力がなくなっているという面があると思います。特に部活動ですね。これは土日も含めて、かなり教員の負担になっておりますので、抜本的に、こういった

見直しができるか、今、検討しているところであります。皆さんの意見も踏まえながら、できるだけいい体制を作っていきたいと思っています。

それから川上委員からありましたシンギュラリティの問題です。いろんな意見があると思います。教えること自体は、多分ICTを使って、AIでやる方が、個別最適化の学習はできる、しやすいんだと思います。ただ、教育を考えたときに、その効率だけでいいのかということは、本当に考えなきゃいけないことだと思っています。人との付き合いとか、みんなと協力して一つの課題をどうやって解決していくかなど、すごく大切なことなので。あるいは子供に色々なことに興味を持たせる、そういうことが先生の役割になってくると思いますので。ICTとリアルの教員が、お互いのいいところを発揮しながら、茨城の教育を改革していければと思っています。

それから中田委員からありました、スポーツ分野における優秀な人材の発掘・育成につきましては、小学4年生からを対象にトップアスリート育成事業というのをやっています。運動能力の高い子供を30人ピックアップして、専門的なプログラムで育成をするということを3年間やろうとしています。今年度から始まっていますが、今年は、アントラーズに選手達との交流も含めて、コーチングもしてもらおうと思っていましたが、今回コロナ禍で、アントラーズ側からお断りがあったという話もありまして、できればサッカーに限らず、茨城の場合には、バスケットや野球のチームもありますので、その一流の選手との交流、それから教えてもらうこと、そのようなこともやりながら、スポーツについてもしっかりと伸ばしていきたいと思っています。

それから特別支援の関係ですが、障害者の雇用につきましては、産業戦略部で好事例を企業の皆さんに紹介したり、あるいは障害者の雇用について積極的に実施している企業につきましては、表彰するという制度もございますので、そういった制度を積極的に実施しながら、産業戦略部とも連携して教育委員会としてもやっていきたいと思っています。

それから庄司委員からありました、個性を伸ばす教育が重要であるとか、誰一人取り残さない教育が大切だということについて、これもまさにそのとおりだと思いますので、しっかりと取り組んで参りたいと思います。ICTを進めるにあたって、機器の整備と環境の整備は予算をつければそれで済む話ですが、今一番問題なのは何かというと、教員のスキルアップ、これが一番だと思っています。各学校にICTに詳しい人がいれば、何か困ったときにすぐに聞けると思うので、やはりそのようなOJTが大切だと思いますので、できるだけすべての学校に詳しい先生を入れながら、一方では、きちんとしたICTの研修の体系づくりをしっかりとやっていきたいと思っています。

それから、中庭委員からありました、学校の役割をどのように考えて、一流のものや違った文化に触れることが大切なんだと。まさにそのとおりだと思いますので、中高一貫校であるとか、あるいは、今回、改革をしようとしているいくつかの高校において、そういった社会で先端的に活躍している人たちと触れ合う機会を設けるような改革もしていきたいと思っています。

それから中高の教員の交流の話ありましたが、これはまさに課題だと思っています。これからどういう形でやるのがいいのか、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

(大井川知事) ICTは市原委員の話ですね。

(小泉教育長) そうですね。あと市原委員からいただいた通学路の安全確保については、教育委員会だけではどうにもできないところがありますので、県民生活環境部や県警本部と連携しながら、必要なところを積極的にやっていきたいと思っています。

それから「S高」の話。ぜひ、「S高」の特徴的な課外授業を本県の既存の高校と連携しながらやっていきたいと思っています。

(大井川知事) ほかに誰かございますでしょうか。よろしいですか。ちょうど時間となりました。本日の議事はここまでとしたいと思います。様々貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

(事務局) それでは以上をもちまして、令和2年度茨城県総合教育会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。